



萩市須佐地域

公民館だより

須佐地域生涯学習推進
マスコット「まな坊」

※題字は昭和48年発行第1号時のもの

令和8年

8月

第637号

**集おう！学ぼう！
手をつなごう！**

発行/須佐公民館 〒759-3411 萩市大字須佐4570-1 Tel08387-6-2310 FAX08387-6-2030
弥富公民館 〒759-3302 萩市大字弥富下4043 Tel08387-8-2044 FAX08387-8-2212
特定非営利活動法人 須佐元気なまちづくりネット

川辺のアユとり合戦！



放流したアユを探す子ども達：子ども会水辺の生き物ふれあい会

《今月の話題》

○夏休み最初の行事

～鈴野川で水辺の生き物ふれあい会～・1、2P

○須佐地区ポッチャ大会・・・・・・・・・・3P

○生涯学習作品展示に多くの来場者・・・・・・・・4P

○特集対談「昭和を振り返って」(前編)6P～9P

○ぽっぽや「山岡保治」の今昔物語・・・・・・・・12P

○(新)ふるさとの「碑」コーナー・・・・・・・・14P



たくさんのアユがとれたよ

さあ、夏休みに突入！

涼を求め川辺で水遊び！



弥富地区・須佐地区子ども会育成連絡協議会

小・中学校の1学期の終業式が終わり、子ども達が待ちに待った夏休みがやってきました。

7月20日(月)の「海の日」、昨年に引き続き、弥富・須佐両地区の子育連による「水辺の生き物ふれあい会」が開催され、子どもから大人まで多くの方の参加がありました。

場所は、鈴野川小学校手前の鈴野川で、水辺の生き物を観察したり、アユのつかみどりをしました。

子ども達は、すでに服の下に水着を着て、川遊びを楽しみにしていました。

開会式の後、アユが到着するまでは、岩本裕子(12区)指導者による水辺の生き物ふれあい会が行われ、子ども達は早速、川の中に入り水の中が見える大きな水中眼鏡で、生き物を探し始めました。「気持ちいい」「あつ、おたまじゃくしがいっぱいいる」「カニがいたー」など、いろんな生き物を見つけていました。生き物探しに飽きた中学生や高学年の小学生たちは、魚を放流させる



「アユ、とれたよー！」

場所の横に水の深い所があり、上から飛び込んだりして遊び始めました。準備された浮き輪をつける人、着けずに飛び込む人それぞれ。みんな「わあー!」「キヤアー!」と悲鳴を上げながら楽しんでいました。そのうち、メインのアユが登場! だんだんと階段状になっているところが放流場所として事前に準備され、大人がそこへ120匹のアユを放流しました。「アユがとれるぞー」という掛け声をする

と、一斉に放流場所へ集まり、アユをとり始めました。

今年のアユは値も上がり、数も少ないようで「逃がさずに、全部とりきらんともつたいたいぞー」という声も聞こえる中、子ども達は無心になってアユを探し、手づかみでとつ



勢いよくジャンプ! 楽しそう...

たり、確実にとりたい人は、数少ない網で捕まえたり、中学生は数人でアユが来そうな場所を取り囲んで捕まえようと、それぞれ工夫しながらアユを全部捕獲しようと頑張っていました。

とれたアユは、田万川漁協の方が竹串にさして焼いて下さり、参加者は、焼けたアユを熱いうちに口にほおばって「おいしい!」と言いな

ら食べていました。

炎天下の中でしたが、川の周辺には木々も生えているおかげで若干陰もあり、足だけでも水につけていると、心地よい水の冷たさと、川のせせらぎの音とともに涼しくも感じられました。

最後に、「皆さん、楽しかったですか?」と聞くと、「楽しかった!」と疲れ知らずの元気な声で返事をしていました。

「暑い中での川遊びは楽しいけれど、すでにニュースでも流れいいるように、危険な事故も潜んでいるので、気をつけてください」と水遊びの注意も子どもだけでなく、保護者の方へも声をかけていました。

夏休みは、まだまだこれから。楽しい思い出をたくさん作ってください。



焼きたてのアユをおいしそうに食べる子ども

スポーツ大会で リフレッシュ！

須佐地区ポッチャ大会

7月19日（日）、毎年恒例の「須佐地区ポッチャ大会」が須佐文化センターホールで開催されました！

今年は、熱練チームから元気いっぱい小学生チームまで、バラエティ豊かな全11チームが参戦。1チーム3〜4人編成で、白熱した戦いが繰り広げられました。

開会式では、須佐中2年生の上田聖さんと藤山清花さんの2人が選手宣誓を。大会への意気込みが感じられました。

試合は、1チーム2試合を戦う予選リーグ戦からスタート。どの試合も一歩も引かない熱戦ばかりで、上位チームによる決勝トーナメントへ



青ボールを押せば、まだ得点の可能性も…

進むと、更にレベルの高い戦いが繰り広げられました。

見事なチームワークと技術で頂点に輝いたのは「スポーツ振興会A」の皆さん。そして、堂々の2位には中学生男子チームの「たこやきパラ



判定…どちらが何点獲得か…

ダイス」、3位には中学生女子チームの「DecoBoo」が入り若い世代の大健闘も光りました。

今回は、老若男女みんなが真剣な表情で勝負に挑む姿は、見ていて本当に楽しそう！ナイスプレイが飛び出すたびに「おおっ！」と大きな歓声や拍手も沸き起こっていました。

世代を超えてみんなであつて熱くなれるのが、ポッチャのいい所ですね。参加された皆さん、本当にお疲れ様でした！次回もたくさんのご参加をお待ちしております！

生き活き教室

星に願いをのせて…

つどい会



7月1日（水）のつどい会は、折り紙を3枚使って星を折り、その中に七夕の願いごとを書きました。

星の作り方はとても簡単で、3枚の折り紙をそれぞれ三角に折り、3枚重ねてノリで貼るだけで作れます。



説明書を見ながら折り紙を折る参加者

皆さん色とりどりの折り紙で、自分だけの星を作り、願いを書いていました。「願いかあー、何があるかなあ」と悩まれる人や、すぐにペンが走る人など、皆さん真剣に願いを込めていました。願いを書き終わると今度は、七夕飾りを作りました。

ちようちんを作ったり、扇つづりを作ったりしました。この扇つづりが皆さんの心にはまったのか、気が付いたら全員が扇つづりを作っていました。

折り紙を蛇腹に折って真ん中を半分に折りノリでくっつけたら扇の完成です。その扇を8つ作り、全部つなげたら扇つづりの完成です。折り紙も両面に色がついたものや、和柄・水玉・透かし模様などたくさん種類があり、「昔はこんなに色も柄もなかったよね」「今は何でもあるね」「こんなにいろんな折り紙があるなら楽しいね」と扇を折りながら話されていました。たくさんの飾りと願いごとを笹に飾ると、扇つづりを結んだ枝は少し重そうにしていますが、きれいな扇を風で揺らしています。今年の七夕は、織姫と彦星が会えたでしょう。うか：そして皆さんの願いも叶いますように。



願いがかないますように…

■今月の献立

- 簡単ビビンバ風温玉のせ
- わかめスープ
- コーヒージェリー

生涯学習の「輪」を広げよう！

第35回須佐地域生涯学習発表会

6月20日（土）から22日（月）までの3日間、毎年恒例の生涯学習発表会「作品発表」が開催され、日頃、公民館で活動されておられる団体や個人で手掛けられている作品など約310点が須佐公民館の1階多目的室やロビー、また、須佐文化センター玄關ロビーに展示されました。

年々、絵画が減ってきてはいるものの、写真や絵手紙、書、洋裁、文芸、陶芸、編み物など手ごたえのある作品が並ぶ中、公民館で活動して



いつも心が癒やされる作品ばかりの「絵手紙教室」の作品

いる、NPO法人須佐元気なまちづくりネット主催の生き生き教室から、手芸クラブやエコクラフトクラブ、陶芸クラブなどの作品も多く展示されました。

21日（日）には、特別公演「須佐ふれあいコンサート（7月号で紹介）」も開催され、3日間で来場されたのは、約380名でした。



多くの人で賑わう作品展示会場

作品数は、昨年よりも若干多かったです。十数年前と比べてみると、ここ近年では、作品の種類が減ってきているのが現状です。そこで、ジャ

ンルの多かった頃の作品をちよつと振り返ってみました。

この頃、紙粘土で作られた作品が出品されていました。細かな動きのある細工に色遣いなど、祭りを題材にしたものや、時には月ごとの行事



公民館学級「習字教室」の皆さんの作品

などをモチーフとしたものなど、見る人が幸せになるような作品でした。絵画も果物や野菜、風景画など身近にあるものを題材とした作品や折り紙、ちぎり絵など個性豊かな作品も見られました。

今年度の作品は、団体で活動されている作品が多かったように感じました。

また、個人で作成されておられる作品も、個性のある作品ばかりで、



陶芸では大きな作品を作る



ジーンズを再利用して作成された服やバッグ

来場者も「これ、すごいねえ」「私はよう作らん」と展示されている作品を褒められていました。出品者の皆さん、ご協力ありがとうございました。また来年、たくさん作品をお待ちしております。



交通ルールを守ろう！

弥富さつき学級

7月10日（金）、弥富交流促進センターで、「交通安全教室」変わる交通ルールと安全なくらし」を開催し、多くの参加がありました。

講師に、弥富駐在所の袈裟丸篤史所長と萩警察署交通課の酒迎泰郎部長をお迎えして、交通事故の現状や交通ルールの改正、安全運転の心構え、特殊詐欺対策など、身近な事例を交えながら分かりやすくお話いただきました。



メモを取りながら真剣に話を聞く参加者

講話では、山口県内や萩市内の交通事故発生状況を紹介され、重要な点として、「『だろー運転』ではなく、『かもしれない運転』を心掛けましょう」とお話をされました。危険を予測して運転することが、事故防止につながることを教えていただきました。

また、見通しの悪い交差点では、自分が優先道路を走っていても、必ず安全確認をすることの重要性についても説明がありました。

その他にも9月からは、生活道路の法定速度が時速60キロから30キロへ見直されることや、時速30キロを超えると、歩行者との事故で致死率が高くなること、自転車の交通ルールについてなども説明されました。

また、「エアコンを使用すると酸素濃度が低下し、眠気を感じることがあるので、休憩を取りながら運転することが大切」など、夏の運転で気を付けることも教えていただきました。

後半では、防犯についてもお話がありました。

参加された皆さんは、「交通ルールを見直す良い機会になった」「早速、防犯アプリを使ってみよう」などの声が聞かれ、交通安全や防犯への意識を高める有意義な学習会となりました。

スポーツウエルネス 吹矢体験会

須佐さつき学級

7月16日（木）、山口県スポーツウエルネス吹矢協会、萩・夏みかん支部の草野隆司さんをお迎えし、「スポーツウエルネス吹矢体験会」を須佐文化センターホールで開催しました。



講師の草野さんが、一連の所作から矢吹きまでを実践

この吹矢は、ただ的に当てること为目标ではなく、「健康を目的としたものであること」や、独特の呼吸法がもたらす素晴らしい健康効果について学びました。胸とお腹をしっかり使う呼吸法は、ストレス解消につながり、お口の筋肉を動かすこと



実際に矢吹きの体験を行う参加者

で「誤嚥（ごえん）性肺炎の防止」や「脳の老化防止」にも効果抜群だそうです！

お話を聞いたあとは、実践タイム！まず、丁寧に矢を吹く前後の所作と吹き方をレクチャー頂いた後、いよいよゲーム！ただ矢を放つだけでなく、まずは一連の呼吸法を伴う「所作（しよさ）」も大切。大会になると、この所作も審査に加わってくることも教わりました。また、矢が的に「トンツ」と命中したときの気持ちよさを参加者の方は感じられ、非常に楽しまれている様子でした。

これからさつき学級では定期的なみんなが新しいスポーツを楽しむながら、元気に体を動かす会を設けていきたいと思っています！

特集 対談

昭和を振り返って (前編)

次の時代に残したいモノ

(司会)

今日は足元の悪い中、大変お忙しい折、お声かけ致しました皆さんにお集まり頂き誠にありがとうございました。昨年昭和から数えて100年の年を迎えました。昭和100年間に振り返るにあたり、色々な構想を練っていましたが、昨午年明け早々に地域の歴史を知る大切な人を亡くしました。須佐郷土史研究会の西村会長が亡くされました。会長には郷土の歴史のほか、何より貴重な戦争も体験しておられる方で、公民館だよりでその昭和の体験を紙面に紹介できないかと構想を立てていましたが残念なことに叶いませんでした。そして1年が経過して、よくよく考えてみるとやはり昭和の話は避けて通れないと、結局101年を越した今年に、昭和から学ぶ「地域に残したいモノ」と題したテーマで私達にできる範囲の対談を計画したところです。

日本が貧しくなっていた頃だと思います。残念ながら当時を語れる人は少なくなり、本日は昭和初期を誰も語れない状況ですが、今まで諸先輩方から聞いた話しか伝えることはできません。



大いに沸いた須佐駅開通祝賀(昭和3年)

まず最初に、昭和、平成、令和と昭和から数えて101年間に振り返ってみますと、やはり前期は戦争といった暗い影が世界を覆い、どん

私は、たまたま時刻表を集めたこともあり、戦時中の紙不足や物資の不足が、日本経済にも影響を及ぼしていたことを知り得ることができ、物資の不足から当時の小学校の

校庭は芋畑に化しており、戦争の激化と共に住民は食べる物もままならない時代が続く、情報も誤情報ばかり伝わり、真の情報は伝わらなかつたと聞いています。(そういう意味では、現代社会も同じような事が言えるかもしれません?)

戦後変革の年・・・

そして、終戦後新たな日本の登場となり、徐々に復興の道を辿ることとなります。日本の体制自体が変わり、多くの町村が整理され昭和の大合併が進められました。昭和30年という節目は、隣どうしの駆け引きが激化し、70年経った今でもその爪痕は尾を引いているように思われます。昭和30年代は、少しずつ日本も高度成長期の基盤をつくる時代となりました。まだまだ須佐町の人口も多く9000人強が暮らす町でした。

昭和38年10月には、山口国体が開催され、県民一同が集う大きな大会となり、未だに当時のスローガンを使っている公民館もあるくらいです(体力づくり○○大会とか駅周辺のカンナの花、黄色いガードレールなど)。山口県にとつては、大変な進化の年となったと言えます。

また、翌年に開催された東京オリンピックは、高度成長期の象徴でもある新幹線の開通などで日本が沸いた時期でもありました。白黒テレビがカラーテレビになったのもこの時期です。

緩やかに人口減少・・・(中期)

須佐町も、昭和50年を境に人口はゆるやかな減少傾向となり、昭和30年の人口は半分に減少しました。昭和45年に開催された大阪万博では、近代未来の機械や装備が展示され、須佐町からも多くの住民が会場に足を運び、都会派志向が強くなってきたような気がします。国も昭和40年代から過疎地域への支援を開始しました。

須佐町は、昭和60年前後、「ふるさと創生」事業を活かした、元気な地域づくりを提唱しました。

徳山市との姉妹縁組、国道315号線の開通、須佐町役場庁舎の完成などまだまだ須佐町が元気な時期だったといえます。



徳山市・須佐町の姉妹縁組(昭和60年)

後期(平成・令和時代)

平成に入り、全国岬サミットの開催、須佐湾エコロジーキャブ場、フイッシングパークなど補助事業によるイベント開催など積極的な事業が国の支援を受けながら展開していきましたが、財政的には非常に厳しい状況を迎えました。平成13年の山口きらら博では住民が協力し大会を盛り上げました。

そして、平成17年幾多の合併事務の変遷がありましたが、1市2町4村が合併し新生萩市が誕生しました。合併当時38,000人その内須佐地域の人口は3,700人でした。



平成 25 年 7 月 28 日山口県北部豪雨災害

幾多の地域課題を背負ったままの平成の大合併となり、平成25年7月

28日の山口県北部豪雨災害では多くの人的・物的な被害を被り、これを機に人口は一挙に減っていきましました。

豪雨災害から13年が過ぎようとしています。豪雨災害から13年が過ぎようとしていますが、人口減少に歯止めが効かない状態が続く、今や人口3,000人を切る勢いで、減り続け今では消滅集落も始まっています。

また、令和の時代に入り、冷え切った地域にコロナの感染拡大が広まり、人と人との交流イベントの中止などが追い打ち、人口も益々少なくなり、商店の閉店などが続き、住民にとつては暮らしにくい地域の到来となつてしまいました。

ざつと100年を振り返ってみると、様々な住民の皆さんの変遷があつたかに思えます。

対談が始まります

いよいよこれから、それぞれの世代の皆さんに登場頂き、自分で分る範囲内での、昭和100年を振り返り、次の時代に残したいモノは何かを考えていきたいと思ひます。

今回対談に参加される皆さんを紹介致します。敬称略

○石田憲雄(本町上)昭和42年生まれ
色々な団体に所属され、須佐の物知りの一人です。

○林和哉(山根丁東)昭和60年生まれ、塾を営み子ども達との関りも多い方です。

○福島友美(横屋丁)昭和56年生まれ、福岡県久留米生まれ須佐に嫁ぐ、子育ての傍ら、地域素材を生かしたジェラートづくりに奔走。



対談全体の様子

○本尾信雄(野頭)昭和23年生まれ戦後ベビーブーム時に生れる。多彩な人生経験を地域に活かされている。

○山本浩之(青葉台)昭和60年生まれ、仕事傍ら中学生の部活動に参加され、指導されている。

○品川石和(弥富4区)昭和29年生まれ、柚子農家を営む傍ら、伝統文化のかやぶき屋根の継承者です。

○西川郁子(下三原上)昭和35年生まれ、農業を手伝う傍ら趣味のフラダンスで仲間づくりを推進。

そして、対談のアドバイザーとして、弥富公民館の廣兼健一、地域おこし協力隊の山本一貴にお手伝いを

頂きました。最後に、全体司会として、須佐公民館長吉田満がつとめました。

昭和の印象って何ですか

(司会)大変に長らくお待たせしました。それでは、只今より昭和、平成、令和と長い100年を振り返りまして、今から私たちは、どのように生きて行くか、また次の時代に何を伝えていけばよいのか一緒に考えて行きたいと思ひます。

まず最初に、皆さんお一人お一人にお伺いしたいのですが、皆さんの中で昭和100年(昭和・令和・平成・令和)を振り返ってこの100年って皆さんにとってどんな時代だったのでしょうか？

特に印象に残っている事や思い出に残っていることは何でしょうか？

○石田憲雄さん

私は、丙午(ひのえうま)の年の生まれで、上の学年も、下の学年も2クラスでしたが、私たちは1クラスでした。高校に行つて初めてクラス替えがありました。

まだまだ裕福な時代で

はなく、中学生時代には本

当は野球部

に入りたかつ

たのですがお金がかかるので、入れなかつた記憶があります。ガス屋を



石田憲雄さん

やっていたので、昔ガスは1本売りでガスが無くなる食事時には親と一緒に食事をした記憶があまりありませんでした。

ガスもメーター売りになってからそういう事は無くなりました。

今では道も舗装されているのです

が、本町筋も昔は砂利道で、道路脇の溝にも蓋(フタ)もなかったのて下手をしたら溝に落ちたこともありまして。水路に水が流れていました。



育英小学校屋体

私達が育英小学校講堂の最後の卒業生だった。中学校も2年まで古い中学校に行き、3年から青葉台に上がった思い出があります。

○林和哉さん

昭和60年生れなので、昭和の時代は4年くらいしかなかったので、昭和のイメージとして、

その時代はイケイケどんどの時代だったのではないかと思います。



林 和哉さん

祖父の時代(昭和一桁)は、あの時は貧しかったけど、人と人のつながりは良かったと聞いていました。

人と人同士のつながり方は今悪いわけではないけど、希薄になっていくということはいなめません。良くも悪くも機械的になっていく印象があります。私は、田舎を捨てるつもりで関東の学校へ出て行きました。

最初は都会への憧れもあったのですが、最終的には田舎っぺである私は、都会の生活に馴染めなかった気がします。田舎は少し時代が遅れているけどそれが田舎の良さだと感じています。

○本尾信雄さん

私が生まれた頃は、戦後のベビーブームの時代だったので同級生が160人いたので4クラスというすし詰め状態で、クラス替えがあっても一度も一緒にいない人もいました。



本尾信雄さん

同窓会があっても知らない人もいた。人数が多いこともあり貧富の差はあった。おおかだつた。また、今では暴力は大問題ですが、当時先生は、何かあると頭を拳骨でなぐるという事が通常化しており、結構殴られる人は決まっていたように思います。

結局東京に就職しました。都会と田舎の差が大きく格差があったので生活できるかなと不安を感じていま

した。10年後家庭の事情で田舎に帰ってきましたが、田舎の情報と都会の情報に染むまでに時間がかかったことを覚えています。



○品川石和さん

昭和29年戦後のベビーブームが落ち着いた時代でしたが、貧富の差が大きい時代でした。

私は、中学を卒業するとき、知り合いのお父さんから、京都に行き修行してこいと言われたので、それに従って京都に行き、仕事をしながら夜間高校に通って社会と学校との両立で充実した4年間を過ごしました。

入学式は30数名いた同級生も卒業したのは結局15人足らずと厳しいものがありました。学業と両立することの難しさを感じました。

9年京都で働いた時、非常に景気が良く、毎年2万3万と給料が上がりが結局3倍にもなりました。その後、好きだった車を買って帰郷した。その時感じたことは、田舎の時間の流れがすごく緩やかで充実感を感じたことを今も忘れません。

昭和の時代、鈴野川小学校には随分児童はいたのですが、親が出稼ぎに出ており、その同級生が毎年転校する傾向にあった。小学校2年生から5年生の時、毎年引っ越す人が多かった。昭和の時代が良い面と悪い面がいっぱいあり格差が増えてきた時代でした。

○山本浩之さん

小学校の中学年の頃、(昭和60年生まれ)自分が昭和生まれであることに驚きました。

私は、昭和から続いていた街並みの中でどっぷりと浸かっており、赤ちゃんが総菜屋をやっていた関係で、近所の人と一緒に遊んでもらう川に行ったら魚釣りを教えてもらったり、地域のおじさんやおばさんの中で暮らした印象がすごく強いと感じていました。私が一番感じているのは、店のあり方が一番変わってきた感じがします。店のおばちゃん談笑したり、良い事も悪いことも色々な話がある中で、今の店はセルフ化であ



山本浩之さん 福島友美さん

○福島友美さん

久留米で生まれて須佐に嫁いできました。久留米でも田舎に近い風景を見てきたので違和感はありません

でした。昭和というイメージは、悪い事をすれば怒られるように思っていた。生活面で不自由はあまりしていなかった気がします。親は実際には不自由していないかもしれないが、生活の工夫はしっかりしていたのかもしれないですね？

今親になつて親が必死に働いていたことを感じていることもあります。それから思うと、昭和の親つてすごいなと思います。

昔から家族と家族の仲が非常に良かった感じがすることがありました。

(司会)

昭和を感じることは多いと思います。が、「昭和の時代に生きていて良かったと思う点は何ですか？」

○石田さん

今小学校37名、当時下校後子ども同士で遊んでいたの、遊ぶことに不自由はなかった。

特に大人になつても商工会や消防団などのつながりで、よく飲みに連れていってもらったし、声を掛けられてることがすごく嬉しい事だと思っています。

今の若い子のお父さん達に、色々連れて御馳走になったので、今度は自分達の番が回って来ているのだと思っています。今も子ども達も同じことが続けば、昔から現在、そして未来へとコミュニケーション・(飲み)ノミニケーションの輪が広まるのではないのでしょうか。私は、今ま

で須佐はコミュニケーションがしっかりとれている町だったと思つています。そのせいか呑み屋は、7軒も8軒も栄えていたことが立証できます。

○林さん

昭和の流れの中でまだ残っている、昭和から数えて70年くらいはリアルなコミュニケーションがとれた時代だと思

います。

LINE

Eとか便利になつ

ている反

面会つて

話をする

というよ

うな機会

が少なく

なつてい

ます。

今では、色々あつてあれはしては

ダメ、これはしてはダメというよう

な傾向にあるような気がします。

(司会)

昔は、よく先生に怒られたという話もあります。良きも悪きも、その昔は、学校と生徒達のコミュニケーションはしっかりとれていたのでしょうか？



石田憲雄さん、林 和哉さん

○林さん

私たちの時代は、先生は優しくなつていたような気がします。私たちの世代の一つ前に変化があったような気がします。



○本尾さん

須佐にも映画館が二つありました。色々な映画が放映されていました。昭和の時代の特徴的な映画がありました。

その映画もアナログ的な世界で、その延長線上でやぐざ映画などが人気で、良いシーンでは、観客が拍手をする場面もあった。情緒的な見方があるのです。

人間は、生まれながらに映像が脳に記憶されます。人間の生まれたところには帰巢本能がうまれるのではないかと思います。サケが生まれた処に帰るみたいな本能がそこに隠れていそうです。

○西川郁子さん

昭和をあまり感じてなかった気がします。むしろ若い時には、今の若い者はと言わ

れてきたが、

今は言う立

ち場になつ

た、時代は

繰り返すの



西川郁子さん

○品川さん

住民とのつながりが密だった気がします。本当に飲む機会も多かった

忘年会、新年会、運動

会など飲む

時に子ども

が周りに居る

ことが多かつ

た気がする、飲み会の雰囲気も知ら

ず知らずに子どもも体験することも

理解する場面も多かった気がします。

大人の喜怒哀楽も知らず知らず話

も子どもも理解する本当に良き時代

だった気がします。



品川石和さん

次回、後編に

つづく





旧 須佐町中央公民館

豪雨災害で残ったもの

豪雨災害で唯一残ったものは命でした。家財を失った住民は僅かな見舞金を頂いたが、底辺からの出発を余儀なくされました。心は折れ意欲より挫折感の方が大きく、病気を発症するなど二次的な危害が漂いました。そんな折、どうにか地域の疲弊感を払拭しなければと地域おこし団体を中心に、特定非営利活動団体の発足を計画しましたが、最初はお互いが被災者という中で話し合いで、上手く行きませんでした。

会が年数の日程で開催され、地域の実状が報告されました。そして、丁度合併から10年が経過しようとして平成26年3月この懇話会は最終日を迎えました。

須佐から参加されていたふるさとづくり協議会T会長は、この会に合わせ事前に公民館に立ち寄られ、地域として何か話しておくべきことではないかと相談されました。

そして、会議の中で須佐の実状を報告し、「自らの地域は、自らが守り育てる」ことが必要であると述べられ、そのためには須佐地域での団体の発起が必用であると意見を述べられました。そうすると市長から、萩市のモデルとなる地域づくりをしてみないかと激励の話を頂きました。

行政の支援で

特定非営利活動法人を・・・

平成17年3月の市町村合併では、市議会議員の定数削減により、地域の声が市政に届かないとの声により、萩市長と地域の代表による懇話

会が年数の日程で開催され、地域の実状が報告されました。そして、丁度合併から10年が経過しようとして平成26年3月この懇話会は最終日を迎えました。

つた、特定非営利活動法人の発足を提案されました。

つまりふるさとづくり協議会は、任意団体で実働部隊として活動(仕事)できるのは法人格をもった団体でなければならぬことを提唱されたのです。

こうして、特定非営利活動法人(NPO法人)の立上げ準備が始まりました。

初めての会社経営

NPO法人つまり営利を目的としない会社経営は初めての経験。

まずは書店をめぐり、NPO法人の書籍集め、続いて山口市にあるやまぐち県民活動支援センターへ相談、NPO法人立上げのノウハウや規約(定款)づくりや会計手続きなど一度では覚えきれない事務作業で何回も相談所のある防長青年館まで足を運びました。県職員の指導の元で、まず最初に手掛けたのは、法人で何をするのか、NPO法人の業務の種類は、20種類、例えば保健、医療又は福祉の増進を図る活動や社会教育の推進を図る活動・まちづくりの推進を図る活動など本来に地域づくりに必要な項目6種を剪

定。規約(定款)の基本となるものを策定し、当初T会長が発案されたように、豪雨災害から復活、須佐地域を元気にするために、「自らの地域は、自らが守り、育てる」をスローガンとして掲げました。



公民館で開催した設立総会の様子

次は、このスローガンの旗印の基賛同して頂く実働部隊7名の役員の選考でした。市長の肝いりという事で行政から、そしてふるさとづくり協議会から、婦人会などの任意団体から、学識経験者から、とにかく7名の有志で船出することとなり、平成27年10月22日須佐公民館で設立総会を開催する運びとなりました。



タモリに負けずわが町を紹介

「ブラタモリ」ならぬ『ぶらぶらタムラが、わが町を紹介します。

今回は、前回に引き続き「禁門の変と須佐」須佐兵達の活躍を紹介します。

京都市上善寺境内

「長州人首塚碑」

京都市のJR京都駅から地下鉄に乗車して、鞍馬駅で下車、東の方向に徒歩で進むこと約5分すると、寺院の姿が見えてきます。これが千松山遍照院浄土宗「上善寺」です。この上善寺境内に「鞍馬口地蔵を祀る六角堂」があり「六地藏めぐり」の一つとして広く信仰を集めていると言われています。この上善寺本堂に向かって右側に進むと石壁に囲まれた墓碑があります。

これが幕末禁門の変で亡くなった長州藩兵入江九一他8名を祀る



長州人首塚碑(京都上善寺)

「長州人首塚碑」であります。このことについて、記録や上善寺住職にお話を聞くと、元治元年(1864)7月19日禁門の変において、鷹司邸付近で戦死した長州藩士入江九一、原道太、半田門吉、田村育蔵(須佐)、緒方弥佐衛門、小橋友之輔と無名の1人の合計8名を当時境町御門警備隊長であった越前藩桑山十蔵が主君松平春嶽の許しを得て越前藩菩提寺の上善寺に葬ったもので、後の明治38年(1905)旧長州藩主毛利家によって、首塚周辺が整備されて、この碑を「長州人首塚碑」と示したもののこの話を伺いました。その話を伺い首塚碑に向かって合掌拝礼し、般若心経を唱え冥福をお祈りしたところです。

長州征伐

(石州口はじめ5道の攻め)

実践録等の記録を見ますと、元治

元年(1864)7月23日朝廷は幕府に對して、長州追討の勅命(ちよくめい)を發しました。幕府は毛利敬親と定広の親子に禁門の変を起こした責任を問い伏(ふく)罪(ざい)をさせるため、尾張越前および西国諸藩より征長軍を編成しました。動員された藩の数は最終的に35藩、総勢15万人とされています。ついに8月13日、諸藩の攻め日が定められ、五道(芸州口、石州口、大島口、小倉口、萩口)から城のある萩ではなく、藩主親子のいる山口へ向かうと決定しました。



四境戦争布陣図

征長総督は尾張藩の前々藩主である徳川慶勝。副総督は越前藩の藩主である松平茂昭(もちあき)が任

命されました。また、参謀には禁門の変で薩摩軍を率いた西郷隆盛が選ばれています。

徳川慶勝は、総攻撃の日を11月18日と定め、西郷隆盛には長州藩境への布陣を命じました。

長州藩では、それまで藩政を主導していた周布政之助らの「正義派」が衰退し、棕梨藤太らの「俗論派」という穏健派が台頭しはじめました。こうして藩論は幕府に對して、完全な降伏を示す「謝罪(しやざい)恭順(きょうじゆん)」でほぼ統一され、禁門の変で軍を率いた三家老(益田親施(ますだちかのぶ)、国司親相(くにしまささけ)、福原元佃(ふくはらもとたけ))は切腹、長州諸隊には解散が命じられました。幕府側には、あくまでも長州を壊滅する意見も強かったのですが、長州藩の恭順に對してそれ以上の処罰を課せなかった。その背景には、西郷隆盛、勝義邦(よしくに)、海舟(かいしゅう)、の影響があったと言われています。

※長州征伐は、幕府が過激な尊皇攘夷運動を繰り返す長州藩を討伐するため、2回にわたっての軍事行動でしたが、いずれも幕府軍が敗北し、権威が衰退しました。(つづく)

昭和101年

ぽっぽや

山岡保治

今昔物語

3



カメラで昭和を追う・・・

夏の風物詩である「須佐湾大花火大会は、山陰では有名な花火です。須佐湾を彩る唯一無二のロケーションは、須佐湾という舞台で繰り広げられ、特に周り囲む山々が、絶妙な音響効果を発し、見る人々の心と身体に夏の思いを感じさせます。昭和62年7月56歳の作品です。



須佐漁港には多くの観客が集まっていました



弁天祭御神幸船が中島へ



まいど！

地域おこし協力隊の山本です。このコーナーでは須佐のみさんの日々のちよつとした喜びをお届けします。

第2回目は、下三原にお住まいのYさんの喜びをお届けします。Yさんは初回のこのコーナーを読まれて「うちにもこんなのあるけどどうモンキーバナナ！」と出来たバナナの実を片手に公民館で声を掛けて下さいました。

後日、ご自宅へ何うと、立派に広がる緑の大きな葉っぱが！その中を覗くと確かにバナナの実が実っています！

色は青く、大きさは僕の親指と同じくらい。Yさんいわく「これ以上は大きくならんし、中身も詰まらないから食べられんのよ」とのことですが、その姿はまるで「赤ちゃんバナナ」。思わず「かわいっ」と声が出ました。

このバナナ、実は30年前に旦那様のご両親が植えられたそうで、当時は隣に小



須佐の皆様の
心温まるお話を
紹介します！

屋があつたため、日光が当たらず実らなかつたのですが、小屋を壊し、15年前に『二度だけ』実をつけたということです。つまり、今回は15年ぶり！「大したことじゃないのに、呼んで悪かつたねえ」とYさんは謙遜されていましたが、15年ぶりの奇跡、凄いです！
お庭を案内していただきながら、秋になつたら吊るし柿にするのが楽しみな柿のことや畑の事など他にもお話させて頂きました。

最後に、「毎週月曜日の13時半から、須佐公民館でピンポン（卓球）を楽しくやっています！これで締めくくつて」と言われたので宣伝しておきます（笑）ご興味のある方は、ぜひ須佐公民館まで！
地域の方の温かさを感じられ、このコーナーを始めて良かったなと実感した第2回目でした。
おおきに！



石造りの
看板猫が
お出迎え



須佐地域の中に、いつ建立したのか分からない、何の意味があるのか分からない碑がいくつか点在しています。建立した時は、すごく意味があり、これだけ地域の将来を願うという意味もあったのでしょうか、いつの間にか意味のないものになっています。

昨年暮れの話です。読売新聞東京本社

の記者が私を訪ねて来られました。読売新聞夕刊の連載「碑を巡る」という企画でした、碑にまつわる内容と地域の人々の関りを紀行文にしたものです。

2月10日この新聞が発行されましたが、残念ながら当地では読むことができず、後日記者が新聞を送ってくださいました。そんなやりとりがあり、地域の碑の建立について改めて興味をもちました。

そして、今回やっとこの企画を公民館だよりに掲載することができました。是非この機会に、みなさんが不思議と思われる碑について、もう一度記念碑を世に出してみませんか、きっと先人達の思いがあるはずです。

■悠然亭記念碑

悠然亭は、旧役場に立っていた館で、昭和28年6月8日の須佐町役場の火災で、隣接していた悠然亭も焼失してしまいました。焼失を惜しむ声が多く、再建の要望がありました。たまたま、建設までに至りませんでした。悠然亭は、大正10年津田村長時代に時の村会議員大橋末五郎の心配で町に寄附されたものです。



悠然亭記念碑

が、当時仁保翁がその全ての財産を寄附することには子息が可哀そうだと思つたが、仁保翁の決意も固くその気持ちをくんで、有難く受け入れたと書かれています。

当時庭には、多くの橙の木があつたが、その後横屋から役場が移転、隣保館建設のため橙の木は一本もなくなつた。

悠然亭や隣

保館は、公的

倶楽部活動な

どもにも利用さ

れていたと考

えられ、公民

館の前身の役

割を果たして

いたのでは

ないかと思

われます。



仁保久昂翁と悠然亭

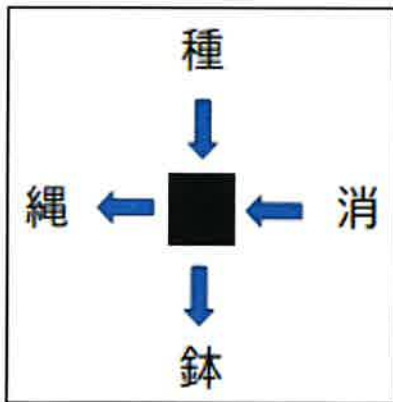
お家時間を楽しく過ごすぞう!

さあ、このコーナーは、『クイズ』で楽しみましょう!

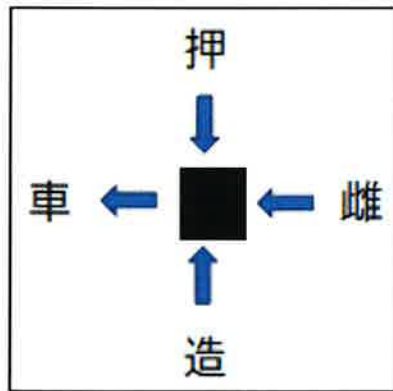
今回も「漢字クイズ」です。それでは:

次の①④の■に入る漢字を解き、解いた4つの■でできる「四字熟語」を作りなさい。(答えは、最終ページに記載)

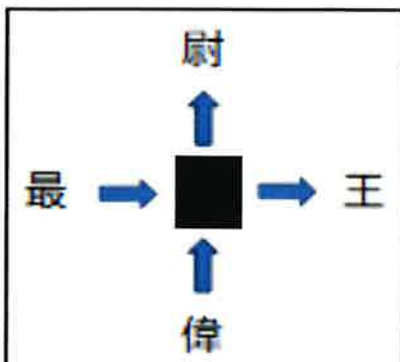
①



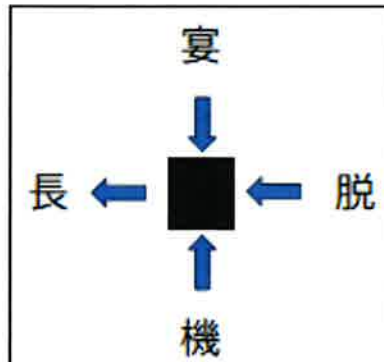
②



③



④



人権教育啓発作品募集！

人権に対する正しい理解と関心を深めるため、地域住民からポスター、作文、詩、標語、短歌、習字を募集し、その優秀作品を地域内で紹介します。

お知らせコーナー

- 応募資格 地域内に在住、あるいは通勤・通学している者
- 作品内容 人権課題解決への明るい展望を地域住民に呼びかける内容で、自由な発想によるもの

○作品の種類

- ①ポスター 大きさ・材料自由（4つ切り縦書き）
- ②作文 原稿用紙（小学生3枚以内、中学生・一般5枚以内）
- ③詩 原稿用紙（小学生3枚以内、中学生・一般5枚以内）
- ④標語・短歌 啓発に役立つスローガンやキャッチフレーズ
- ⑤習字 条幅・半紙（学校名・学年・氏名を記入すること）

下記のポスターは、
R7年度の作品



○表彰及び発表

- ・出品者全員に参加賞を進呈
 - ・入賞者には賞状を進呈
 - ・優秀作品は広く地域内に紹介し、啓発に活用
- （※11月の「須佐美術展」でポスター・習字を展示します）



●応募締切 9月18日（金）

提出先・問合せ 須佐総合事務所 市民生活部門（Tel 6-2211）

第22回 萩市美術展出品者募集！

- 会 期 10月18日（日）～25日（日） 午前10時～午後5時
（※最終日は午後4時まで）

- 会 場 萩・明倫学舎3号館2階

●作品部門及び出展企画

1. 平面の部 洋画、油絵、水彩、版画、デザイン、イラストレーションなど（額縁付き、枠張り、展示が可能なもの）
2. 立体の部 彫刻、工芸
3. 書 の部 屏風、仮枠張り、額、掛け軸
（所定の釈文を必ずつけ楷書で自筆のこと）
4. 写真の部 単写真、組写真ともA1額以内、枠張りまたは台紙張り
（スマホでの撮影可）
5. 応募作品は未発表であること ※申込締切日：9月14日（月）
6. 出展料無料
7. 入賞賞金あり



※須佐地域から出品される作品は、須佐公民館で搬入・搬出もできます。お気軽にお声掛けしてください。（申込は自己申告で）作品は9月30日までに須佐公民館（電話6-2310）へ持参してください。

生涯学習作品コーナー

第35回生涯学習発表会 作品紹介



「タペストリー」 平野ヨシ子(青葉台)

身近なものの写真や我が家のお宝、とっておきの写真など、皆さんからの投稿をお待ちしています。どしどし応募して下さい。

【俳句】

若竹や皮を脱ぎ捨て背伸びして

(山根丁東) ゆめはるか

母亡くし悔い多けれど前向こう

(下三原下) 村田仁史

【短歌】

散歩道道のほとりの紫陽花が

青い花房揺らして招く

(青葉台) 田村雅利

春の暮れアリの行列踏み乱し

ごめんねごめんと歩行車の行く

(山根丁東) ゆめはるか



須佐の偉人伝 大塚均

113

このコーナーでは、切手デザインの大家である大塚均(山根丁東出身)さんがデザインされた約120点の作品を随時紹介しています。

切手カバー図案も合わせてお楽しみ下さい。



大塚 均 (1911-1998)

文化財シリーズ/埴輪の兵士切手

埴輪は古墳時代(300年頃~700年頃)に、古墳を飾るために作られ、当初は弥生土器の形をしていましたが、後に建物や武器、儀式に使う道具などの形になりました。5世紀末頃になると、動物や人物の埴輪が登場し、葬送の儀式に関わる様々な場面を表すようになったと考えられています。兵士の埴輪も、古墳時代の儀礼への参加者や、警護の役割を担う戦士をかたどったものとして、古墳に立てられました。

昭和49年11月11日文化財シリーズの中で200円切手が発行された。大塚均63歳筆の作品です。

2026		8月 地域カレンダー					須=須佐公民館 学=学校・保育園行事 子=子ども対象行事 弥=弥富公民館 スポ=スポーツ関係 弥G=弥富グラウンド 生=生き活き教室 スポ=スポーツ関係 保セ=保健センター	
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日		
						1		
2	3 🏓 ピンポンクラブ 13:30	4 	5 🏫 放課後子ども教室 8:30 🏡 つどい会 10:00	6 🏡 生き活き体操 8:45 🏡 スマホクラブ 13:30	7 👤 のびのび教室 「そうめん流し」 (久原園地)9:30	8 		
9 🏡 韓国カフェ 13:30	10 🏡 スマホ相談所 8:30 🏡 エコクラブ 9:30 🏫 ロビーコンサート 11:00 🏡 ピンポン・ポッチャ 13:30	11 🏡 山の日	12	13 	14 ■ 弥富盆踊り大会 19:00 ■ 鈴野川盆踊り大会 19:30	15 🏡 須佐地区ソフトボール大会 8:30 ■ 須佐盆踊り大会 19:00		
16 家庭の日	17 🏓 ピンポンクラブ 13:30	18 	19	20 🏫 子ども会 9:00	21 🏫 子ども会 9:00	22 ■ ファミリー映画上映会 13:45		
23 	24 🏡 スマホ相談所 8:30 🏡 エコクラブ 9:30 🏡 ピンポン・ポッチャ 13:30	25	26 🏫 GGを楽しむ会 9:30 🏡 音楽療法 13:30	27 🏡 あおば勉強室 13:30	28 🏡 手芸クラブ 9:30 🏡 囲碁・将棋 13:30	29		
30	31 🏓 ピンポンクラブ 13:30							

須佐地区

ソフトボール大会

- 日時 8月15日(土) 8時30分開会
- 場所 須佐グラウンド

～多くの参加を
お待ちしております～

- 須佐あおば勉強室
「防災の備えについて」
○とき 8月27日(木) 午後1時30分から
- ところ 須佐公民館
- 講師 萩市防災危機管理課 地域防災マネージャー 福井俊寛
- 申込み 8月20日(木)までに 須佐公民館 ☎2310へ
- 暮らしのサポート講座
「最適な睡眠を考えよう!」
○とき 9月10日(木) 午後1時30分から
- ところ 須佐公民館
- 講師 明治安田生命
- 申込み 9月2日(水)までに 須佐公民館へ

伝言板

※クイズの答え＝花火大会

毎月第3日曜日は「家庭の日」
今月は「16日」です
★家族みんなで過ごしましょう!

須佐地域の人口 (R8.6月末現在)

	世帯数	人口	前月比
須佐	899戸	1,567人	(△1人)
弥富	205戸	377人	(△1人)
合計	1,104戸	1,944人	(△2人)

昨年比 世帯数△26人 人数△56人

編集後記

平成25年7月28日の豪雨災害から13年目を迎えました。当時橋の橋脚に木々が引つ掛かり堤防が破壊され、濁流が町中に流れ込み大きな被害をうけました。結局須佐では5つの橋を掛け替えることになりました。その橋の一つに龍背橋(りゅうさいばし)があります。新しく架け替えられた橋には、「りゅうさいはし」と書かれています。「・・ばし」と濁ると川が濁らないよう濁点をつけないという祈りの通説があるようです。

Y